

○ホソアヤギヌ若狭湾に産す (梅崎 勇) Isamu UMEZAKI: *Caloglossa ogasawaraensis* Okam. found in Wakasa Bay

紅藻類真正紅藻綱イギス目コノハノリ科に所属するアヤギヌ属植物は、主として熱帯及び暖帯地方の淡水、汽水又は海水に生育する。現在本属には、世界中に6種類報告され (Post, E. 1936; Kylin, H. 1956), 本邦にはアヤギヌ (*Caloglossa lepieurii* Ag.) とホソアヤギヌ (*C. ogasawaraensis* Okam.) の2種類が知られている (岡村 1936)。主として、本州中南部以南の太平洋岸に面した河口の汽水域又は時々支流中にも生育している。ホソアヤギヌは岡村博士が1897年に小笠原島から新種として報告された。それは、その翌年(1898年)に Goebel, K. によって、南アフリカ東部のザンジバル島から報告された *C. zanzibariensis* Goeb. と同種であることが博士自身によって同定された。その後本種はマレー群島 (Post, E. 1936), ジャバ, 南スマトラ (Skuja, H. 1938), 南支那香港 (Tseng, C. K. 1945), ガラバゴス群島 (Post, E. 1955), ブラジル (Post, E. 1957, '59) 及び西部アフリカ象牙海岸 (Post, E. 1959) にも産することが報告された。本邦では茨城県磯原以南の本州太平洋岸, 四国, 九州及び琉球に広く分布する。しかし、本州日本海沿岸には生育地が報告されていなかったが、最近、秋山 (1959) 及び秋山・西上 (1959) は島根県宍道湖からアヤギヌ属 (*Caloglossa* として) を報告した。(秋山氏に直接聞いたところホソアヤギヌとのことである)。筆者は10数年来若狭湾の海藻相を調査して来たが、最近その採集品中にホソアヤギヌのあることを発見し、それが岡村博士の日本海藻標品 (68. *Caloglossa ogasawaraensis* Okam., Mikawa, 1902) と比較して間違いなく同種であることが確かめられたので、日本海沿岸に少い本種の新産地を報告したいと思う。

Caloglossa ogasawaraensis Okamura, Bot. Mag. Tokyo 11: 13, 1897; Icon. of Jap. Alg. 1: 183, 185, pl. 37, f. 1-11, 1908; 日本海藻誌, p. 794, 1936; Alg. Jap. Exsicc., no. 68; Post, Rev. Algal. 9: 60, 1936; Archiv. f. Protistenk. 100: 370-371, 1955; l. c. 102: 104-105, 1957; l. c. 103: 501, 1959; Skuja, Arch. f. Hydrobiol., Suppl. 15: 631, pl. 35, f. 1-10, 1938; Tseng, Pap. Michigan Acad. Sci., Arts & Letters, 30: 163-164, 1945; Fan, Lab. Hydrobiol. Taiwan Fish. Res. Inst. 4: 1-16, 1952; 森, 採集と飼育 11: 373-376, 1949; 生態学会報 1: 130-132, 1951; 藻類 9: 57-62, 1961; 陸水学雑誌 22: 225-229, 1961; 岡田, 植研 15: 50, 1939; 瀬川, 原色日本海藻図鑑, p. 111, pl. 66, f. 536, 1956; 瀬川・香村, 琉球列島海藻目録, p. 59, 1960. ——— *Caloglossa zanzibariensis* Goeb., Flora 85: 65, f. 1-6, 1898.

植物体は2~3個体集合し、その裏面にて他物に着生する。長さは5~7mm、幅は250~350 μ 。生殖器官は不明。産地：海面に浮遊する竹の小片上に着生。福井県小浜湾加斗。Umezaki 3049, 1953年2月28日採集 (標本は京都大学農学部水産学教室腊葉庫に保管)。

終りに熊本県立宇土高等学校森通保氏に同氏並びに Post, E. 女史の論文を貸与くださったことにつき、深謝の意を表したいと思います。(京都大学農学部水産学教室)